FUKUI HAPPINESS 福井県

来る人も 住む人も しあわせ福井

福井の幕末明治　歴史秘話

＜第5号＞

平成28年3月22日発行

由利公正生涯の仇敵、関義臣！

関義臣肖像

関義臣（旧名：山本龍二）は、1839年（天保10年）、福井藩の家老である本多家家臣の三男として、越前府中（現在の福井県越前市）に生まれました。藩校明道館に学び、藩の探索方（藩外での情報収集等を担当）として活躍。性格は、素朴でへつらうことが嫌いな直情型で、頑固な気質でした。**由利公正**より１０歳下でした。

関は、福井藩の方針に批判的で、福井藩の挙藩上洛計画（※1）を阻止しようと動いたほか、明道館教員就任を謝絶。探索方再任を拒否するなど藩の決定には従おうとしませんでした。特に、由利が実現に奔走した挙藩上洛計画が取り止めになったことで、由利は蟄居の身となり、４年４か月もの間政治の舞台から遠ざかるのです。このことがきっかけとなり、由利と関との対立関係が表面化していきます。

※1 福井藩を挙げて武装し京へのぼり、その軍事力と春嶽の政治力で朝廷と幕府をひとつに結び付ける計画

1868年（明治元年）の鳥羽伏見の戦の後、幕府の敗走を笑った関に怒りを覚えた由利は、これまで藩と異なる行動をとってきた関を激しく叱責。関を入獄させるか切腹させるべきだと主張しました。

対立はさらに続きました。関は藩に居場所がなくなる中、土佐藩の後藤象二郎等の要請で、藩の許可のないまま、新政府において大阪府の営繕局等を取り仕切りました。福井藩は大阪府に対し、執拗に、関の解任を要請し、それに応えないと見るや、関の拉致および強制帰藩、そして府中の関の兄宅への幽閉にまで対応をエスカレートさせました。また、1870年（明治３年）には、主家本多家の華族加列問題（※2）に端を発した武生騒動に関が関与したとして捕縛します（後に釈放）。その主導者は由利でした。

※2 本多家は幕府から大名格の処遇を得ていたが、明治政府の華族制度では華族ではなく士族とされ、これを家臣等が不服とした。

その後、関は、大審院検事や徳島県知事、山形県知事、貴族院勅選議員などを歴任。1907年（明治40年）9月には、日露戦争の功により爵位を授けられています。関は、由利の政敵大隈重信とも親しかったこともあり、その後の明治新政府においても由利との敵対関係は続きました。

晩年、関は、芳賀八彌著の由利公正の伝記を地元の武生図書館に寄贈しています。その際、関はこの本に付箋を貼り、「由利ノ虚誕虚喝ノ多キ人ヲ欺キ世ヲ欺キ後ヲ欺ク…」として、内容に問題があることを指摘しました。関と由利の関係を示すエピソードの一つです。

～幕末ふくい歴史紀行～

[明道館（明新館）跡]

・松平春嶽が将来の有望な人材を育成するために設けた藩校、 明道館。
その跡地には今ひっそりと石碑が建っています。由利、関、日下部太郎（福井藩最初の海外留学生）を輩出。維新後は「明新館」に名称変更されました。
住所：福井県福井市大手３－４－１（放送会館東北角）（JR福井駅から徒歩5分）

明道館（明新館）跡

★お知らせ　NHKふれあいホールギャラリーで「福井の幕末明治　先人の軌跡展」開催中です！
・平成28年3月15日（火）～3月27日（日）の10：00～18：00（ただし、3月27日のみ16時まで）、NHKふれあいホールギャラリーで開催（東京都渋谷区神南（NHK放送センターと同じ敷地内））
・由利公正ゆかりの地東京での企画展。東京都公文書館提供の銀座煉瓦街関係パネルも展示しています。

（発行者）福井県　　（問合せ先）福井県観光営業部ブランド営業課　萩原、前田　☎ 0776-20-0762